

No	項目	計画案 項目2	意見
1	運営	近接	・小中学生の交流について、離れていると交流の回数等は減少する。
2			・近接案の場合の交流は、イベント等今できていることの延長になる。
3			・現状、中学校と3小学校の交流は距離の問題があり、すべての学校が同じようにはできておらず、水明小学校の5、6年生が中心の交流となっている。
4			・近接案の場合、違う場所にある中学校との連携は、場所が離れているため時間、移動の負担が大きい。連携の手段として、オンライン等の使用も重要になってくると思う。
5			・近接の場合、連携するには移動が必要になってくるが、先生、生徒の行き来（連携）が大変そう。
6			・近接案は少し無理があるように感じた。
7			・小中一貫教育を実施していくうえでは制約があることは明らか。
8	運営	併設	・併設の場合日常的な乗り入れ授業や異学年学習などの交流が容易となる。比較した際に併設の方がやりやすいことは間違いない。 ただし、一緒にいるからといって交流が促進されるということではない。工夫、仕組みづくりは必要。
9			・併設の場合、教員同士の交流も容易。
10			・東京、千葉の視察先では、低学年からの交流ができていた。
11			・同じ敷地で教育ができることは大きな進歩と考えられる。
12			・併設することのデメリットの把握も必要。
13			・併設案が理想だと感じる。
14			・併設することで、地域の「中心」「核」に、よりなりやすいのでは。
15			・併設し、近くに小学生、中学生がいることでお互いに良い刺激を受けやすい。
16			・子どもの育ちを考えても同じ校舎にすることは大切。
17			・併設することで、中学生もスクールバスを使えるようになれば、親は助かる。
18			・小学校の運動スペースが足りるのか心配。
19			・東京、千葉を視察した中で、グラウンドの心配は授業の割り振りで可能と思えた。
20			・階段の高さが違うので問題になるのではないかと思うが、クリアできるのであれば併設が良いのではないかと思った。
21			・実際に学校運営をしていく中では、併設したほうが良い。離れていると移動に時間がかかる。
22			・連携に移動が必要ないので、実施しやすいと思う。
23			・先生と生徒の連携が取りやすいと思われる。
24			・先生たちのモチベーションを上げやすい環境、また、先生たちが全体を見通すことができる環境だと思う。
25			・東京、千葉の視察の状況を見て、小中学生が垣根を越えて交流があるように思えた。
26			・小中学に限らず、同じ校舎にいても同学年で一緒にいることが多い。そのため近接案にしてしまうと、異学年の交流はより難しくなる。併設の場合、同じ空間で生活することになるので、お互いの雰囲気を含めた状況など色々なものを感じることができるので大きなメリットとなるが、工夫は必要。

No	項目	計画案 項目2	意見
27	運営	併設	・小→中を「卒業」と捉えるのではなく、「進級」という考え方にすることで、先生たちも対応しやすいと思う。
28			・教員の相互交流は併設でないと実質的に不可能。
29			・コミュニティスクールの運営を考えると併設のメリットは大きい。
30			・スクールバスの運営についてもメリットが大きい。
31			・答申案に基づいた運用を考えると併設案になるのではないか。
32			・視察において小学校低学年と中学生世代の交流の魅力を感じた。
33	施設	近接	※意見なし
34	施設	併設	・施設管理や学校への人的支援についても効率的に運営することができるので、きめ細かいサポートができるようになる。
35			・市もお金が無尽蔵にあるわけではない。コストメリットも出てくる。
36			・市内小中学校の現地視察で、空き教室を先生が学年室等で使っているのを見た。併設の場合、保管スペース等の空間が足りるのか不安。ただし、小中の連携を考えると、そのような運用だと先生同士の交流が減ってしまうような気がした。職員室などの使用形態、使用方法についても考える必要がある。
37			・プールが無くなってしまいがどうするのか。
38			・プールについては、今後の検討事項として色々と方策は考えられる。スイミングスクールの活用はよいと思う。
39			・他校のプールを共有するといった方法もある。
40			・自校給食を継続しつつ効率的に運営できる。
41			・費用面での優位性を感じる。
42			・先進地視察の際、各学年にフレキシブルに使える学習室があった方が良く説明があったが、実際どうなのか。小諸市の併設の場合、十分なスペース確保が可能なのか心配。図面上では配置があるが実際にこのような形にすることができるのか。
43			・建物自体は3階建てが限界ではないか。4階以上となると教師、児童、保護者ともに移動が大変だと感じる。
44	その他	教育	・小諸市として「学校教育とはこうしたい」という考え方を「売り」として打ち出して行くことが必要。それを基に教員の意識改革も同時に必要と考える。それを出すことで市民も納得しやすいのではないか。
45			・場所を説明されても、イメージがわからない。学校の施設がどうこうというよりは、中身。小諸市としてどうしていくかというスタンスを出していかないと市民の協力は得られないのではないか。（どういうことをやります。どういう先生がいます。など）
46			・小諸市にどんな教師がいるか、どんな教育をするか、どんな子どもを育てたいかを聞きたい。
47			・校舎と教育理念を同時並行で発信する必要がある。
48			・特色ある教育をすることで人を呼び込むことができる。
49			・今回、小諸市としては「小中一貫教育を実施していく」という理解で良いか。
50			・新校立ち上げ時の体制や理念づくりが重要。

No	項目	計画案 項目2	意見
51	その他	教育	・教育長から市内の教員に対して話があった。教員も再編に向け、今できることは何か、将来できることは何か検討が始まった。
52			・なぜ何のために一緒にするのか。実際に通っている人の意見、一緒にすることで何が生まれるか考えることで意見が充実するのでは。統合するのが大人の意見という気もする。
53			・不登校が多い。ありのままの自分が出せる学校になってほしい。
54			・総合学習のやり方など考える必要がある。
55	その他	編成	・視察先では、5－4年制を採用していた。小諸市もクラス、校舎の配置等検討が必要。
56			・少人数もメリット、デメリットがある。
57			・学園制の検討も必要か。その場合、小学校・中学校という区分でなく、品川学園のように「1～4年・5～7年・8～9年」という区分の考え方も必要ではないか。そうすることで、学校施設のあり方も変わってくる。
58			・学園制を採用した場合、専門家として対応すべきものであるが、移動してきた先生によっては混乱する可能性があるので、学校への浸透が必要。
59	その他	施設	・既存校の視察の際、芦原中学校のエントランスは交流の場として大変良いと感じた。
60			・使わない施設の後利用の検討が必要。
61			・東京、千葉の視察先では施設の委託管理をしていた。そういったことの検討も必要では。
62	その他	登下校	・千曲小学校のスクールバスの実証実験は、署名を集めて始まった。実際に稼働すると課題も出てくる。一度動かさないと満足いくものにはならないのでは。
63			・八千代市では、全ての児童がスクールバスを利用できている。統合ではスクールバスの導入検討も必要。
64	その他	防犯	・防犯も保護者の願いとしてはあるので、検討が必要。
65			・防犯体制について、地域の防犯カメラとの連携など防犯カメラについての検討が必要だと思う。
66	その他	地域	・視察先ではPTAで思い切った対応をしていた。検討が必要。
67			・コミュニティ、地域連携により子どもを育てることが必要。
68			・地域コーディネータの導入も必要では。
69			・地域の人数が減っていく上で、関わりも減少する。ゲームが主流になる中で、実際に交流を図る場として学校が利用できるとなると良いと思う。
70	その他	人	・阿蘇米本学園の校長先生の熱量がすごかった。真似できたらいいと思う。
71			・阿蘇米本学園の校長先生の熱意がすごい。大事。方針を明示して先生をその気にすることが大事。
72	その他	説明会	・また、ここまで進んだ内容が戻ってしまうので、説明会での説明の内容については考えたほうが良い。
73			・説明会の結果についてのアウトプットを考えたほうが良いと思う。周知をしているというが、認知が追いついていない。
74			・現時点で多くの議論がされてきているので、これまでの議論を無くすような説明は避ける必要がある。

No	項目	計画案 項目2	意見
75	その他	情報発信	・ 情報発信手段も重要だが、情報取得者が自分事として考えることができるような内容の情報発信が大事ではないか。まちたね広場などはいいい例だと思う
76			・ 決まってから知ることが多い。具体的な話をしないと興味を持ってない。周知方法の工夫を。
77			・ 発信されている情報に中身がない。知りたいことではないので興味が持てない。小諸市としてどんな教育をするか知りたい。
78			・ 保護者を巻き込む方法を考えて学校をもっと使って貰えれば良い。オクレンジャーなど活用が可能。
79			・ SNSを活用してほしい。